

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

ドル/円相場は、来年以降に向けた長期ドル安・円高トレンドにある中、しばらくは105円～115円のレンジ相場を続けていくものと考えます。

昨年までは2012年から続いてきた長期ドル高・円安トレンドが続いていたわけですが、今年に入ってそれが終了したと判断されます。

【ドル/円 週足】



テクニカルで見て、下値を支えてきたサポートラインを下方ブレイク (①) したこと、相場の長期の方向性を示す52週移動平均線が下向き（ドル安・円高方向）に転換したことに加え、1995年以降のドル高・円安局面がほぼ2～3年サイクルで終了していることと整合します。つまり現在のドル/円相場は2012年から2015年のドル上昇に対する調整局面にあるものと考えられ、そうであれば95年以降のドル安・円高に対する調整は最短でも約1年弱続いており、今回に当てはめると2017年前半まではドル安・円高トレンドが続きそうです。

しかし、95年以降のパターンを見ると、52週移動平均線が下向きに転換した後は-10%～-14%程度まで下方乖離すると一旦下げ止まる傾向が見られ、現在の水準で計算すると下値めどは107円～102円程度となり、5月のGWでの下押しで105円台をつけていることから一旦は反発する可能性が出て来ています。

ドル/円相場のトレード戦略

また、下げ止まり後は52週移動平均線近辺まで反発する可能性があり、上値のめどは52週移動平均線のある119円水準です。ただし、上値に関しては今年3月何度も上抜けを試して跳ね返された114円～115円はきわめて強い抵抗となっており、この水準を上抜けることは難しいように思われます。

以上のことから当面は105円～115円のレンジでの上下動が続くため、レンジ内での押し目買い・戻り売りが中長期で見たメインのトレード戦略となります。

リスクシナリオとしては、

- ①マーケットにサプライズを与える新たな手段による金融緩和や日銀のドル買い・円売り介入によって115円をクリアーに上抜き120円水準まで上昇すること、
- ②米国経済の悪化により米国が利上げできない、もしくは利下げを検討するなどの要因によって105円さらには100円を下抜けてしまうこと、が考えられます。

■ 短期展望

先週は、週初こそ米国の早期利上げ期待を背景にしたドル買いで111円半ばまで上昇しましたが、その後は予想に反してドルが軟調な動きとなってしまいました。

また、週末の米雇用統計が5年8ヶ月ぶりの低調な結果となったため、106円半ばまで急落して週を越えています。

ただし、このままドル安が継続するとは考えにくく、今週は106円～109円程度での取引となる可能性が高いように思われます。その背景としては、今回の結果だけをもとに米労働市場が悪化に転じたと判断するのは早計のように思われ、米国の追加利上げ観測がなくなったわけではないこと、105円を割れると100円が視野に入ってくるため、日銀の追加緩和観測が強まる可能性が高いことなどがドルの下値を支えそうです。

したがって、105円割れの場合の急落リスクを意識しながらドルの押し目買いを先行させ、早めの利食いを心がけるトレードが有効と思われる。

今週は、イエレンFRB議長の講演があり、追加利上げに前向きな見解を表明した場合、ドルを買い戻す動きが広がりそうですが、早期追加利上げの必要性について言及しなかった場合には、ドルが再び下値を試すリスクがあることには留意が必要でしょう。